

**令和4年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」
アソシエイト校における取組について**

1. アソシエイト校について

類型名	グローバル型
学校名	福井県立武生東高等学校
管理機関名	福井県教育委員会

2. 令和4年度における取組について、該当する欄に○を記入してください。

	参画した	参画していない
2023/3/17 開催 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」 成果検証報告会（視聴のみ参画も可）	○ <small>視聴のみ</small>	
2023/1/17 開催 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミット （視聴のみ参画も可）	○ <small>視聴のみ</small>	
【プロフェッショナル型のみ回答】 2022/10/15、16 開催 全国産業教育フェア青森大会		

3. 問2以外で実施した地域との協働による学習活動等の取組について、以下の回答欄に記入してください。また、記載いただいた内容について、参考となる資料があれば提出してください。（様式任意）

<p>本校では自治体や地域企業に協力頂きながら探究活動を行っている。</p> <p>令和4年度は、新たに越前市の地域貢献活動支援補助金事業に生徒の探究活動のプランを申請し、5グループが採択された。市から補助金を頂いたことで、より実践的な探究活動となった。</p> <p>以下、令和4年度の代表的な取り組みを示す。</p> <p>1 「心のバリアフリーすごろく」の開発と普及 障害者や妊婦をサポートする際のコミュニケーションの取り方を学べるすごろくを製作、市内児童館に配付した。</p> <p>2 「越前おろしそば×ガチャ」 越前おろしそばの知名度アップのため、新幹線の新駅「越前たけふ駅」に隣接する道の駅内に、市内のそば店の割引券を販売するガチャガチャを設置した。</p> <p>3、「ランタンフェスティバル」の開催 地元和紙組合と協働し、和紙の魅力を発信するランタンフェスティバルを開催した。</p> <p>令和5年度からは、学校設定科目「地域学」を開講。探究活動と関連させながら、地元自治体や企業との連携を深めていく。</p>

5. 管理機関担当者

担当課	高校教育課	TEL	0776-20-0570
氏名	板倉孝司	FAX	0776-20-0669
職名	主任	E-mail	k-itakura- 71@pref.fukui.lg.jp

5. 資料

令和5年3月21日（火）福井新聞



願いごとを書いた越前和紙の短冊を貼り付けたランタンを夜空に飛ばす参加者＝19日夜、越前市武生中央公園

和紙に願い、夜空へ

ランタン220個 武生東高生企画

越前市の武生東高の2年生2人が企画した、越前和紙を使ったスタランタンを飛ばすイベントが19日夜、市武生中央公園で開かれた。大勢の家来連れらが集まり、ランタン約220個が夜空に浮かんだ。企画したのは同校普通科の吉田結香さんと同校の藤井幸さん。イベントは地域課題解決に取り組む探究活動「Eノ・クエスト」の一環、若い世代に越前和紙の魅力を伝えることでもあった。

紙の魅力を待たずに、SNS（交流サイト）映えを狙ったイベントとして、スカイランタンを飛ばすことにした。昨年7月から準備を進め、市内外の企業を個人から協賛を募ったり、製紙所から越前和紙を提供してもらった。

ランタンは、越前和紙で覆われた風船の中に発光アイオードLEDが入っており、願いを書いた和紙の短冊を貼り付けた。この日は、家族連れやカップル、友人同士が訪れた。同校生徒約30人がランタンで運営に携わった。午後7時半ごろ、参加者全員でカウントダウンし、将来の夢や大切な人の健康や幸せなどを願ったランタンを飛ばし、幻想的な雰囲気に包まれた。参加者は写真に収めて楽しんでいった。

2人は「予算が準備は大変なことが多かった。こんなに人が集まり、実現できてうれしい」と喜んだ。越前和紙のグッズを使った抽選会も行い、会場は盛り上がりだった。（永壽菜々帆）

越前市の武生東高の生徒グループが、当地グルメの越前おろしそばを県内外の人に広めようと、割引券を入れたカセル玩具販売機「ガチャガチャ」を、同市の道の駅「越前たけふ」に設置した。「市内にたくさんあるおいしいそば屋を呼ぶ知ってほしい」と利用を呼びかけている。

地域の課題をテーマにした同校の探究学習「Eノ・クエスト」の一環で、2年の山岡優花さんと山崎光さん、土山陽菜さんのグループが企画した。越前おろしそばは同市が発祥の地とされることを知り、普段はそばになじみがない人にも食べてもらいたい」とガチャとの組み合わせを考えた。同市のそば店「越前そばの里、江戸屋、御清水庵」の3軒が協力し、1回500円で、通常600円、800円程度のそば1杯が入ったガチャが出て、各店舗10枚分を入れ、天ぷらが付く「当り」も入っている。

18日の道の駅「Eノ・クエスト」の1階のそば店近くに設置した。期間は25日まで。3人は「地域の人たちと協力して企画実現でき、うれしい」「ガチャをきっかけにそば店に足を運ぶでほしい」と話している。（細川晋弘）

ウェルカム 2024

源氏物語和紙人形

アイシン 福井奇贈 越前市役所 26日まで展示

は20日、源氏物語を題材にした越前和紙人形の作品を越前市に贈った。作品は市役所内の市生涯学習センター「ロビー」に26日まで展示され、その後は市内の展示施設で順次公開する予定。



作品は、同社が伝統工芸の魅力発信に寄りたいと、2018年に市内の越前和紙人形作家から購入したもので、源氏物語に登場する建築物（六条院）での宴の様子を表現している。幅2・6尺、奥行1・8尺あり、18体の人形が置かれており、市ゆかりの紫、緑が来年のNHK大河ドラマの主人公

おろしそば1杯券 「ガチャ」でお得に

武生東高生、道の駅に設置



わゆる「心」のバリアフリー「すごろく」を作った高橋さん（中央）と佐々木さん（右）＝27日、越前市役所

令和5年3月29日（水）福井新聞

弱者への配慮、学べるすごろく



「心のバリアフリーすごろく」を作った高橋さん（中央）と佐々木さん（右）＝27日、越前市役所

武生東高生が作成

越前市全児童館に配布

越前市の武生東高2年生2人が、障害者や高齢者をサポートする際のコミュニケーションの取り方を学べるすごろくを制作し、27日、市内の児童館に配布した。市内の全児童館に配布し、子どもが福祉意識を育むきっかけとなる。2人はともに普通科の高橋さんと佐々木さん。2人は、障害者や高齢者のサポートに関する知識の必要性を痛感し、経験から、すごろくの制作を思いついた。地元の福祉施設を訪れ、福祉関係者と話し合い、制作の方向性を決めた。制作は、市内の児童館に配布する。2人は「Eノ・クエスト」の一環として取り組んだ。「心のバリアフリーすごろく」を制作し、児童館に配布する。すごろくは、福祉意識を育むきっかけとなる。2人は「Eノ・クエスト」の一環として取り組んだ。

1日にロゴマーク3案の意見を聞き、市内外の3人が回答した。市職員らによる審査を経て、幅広い世代から最も多くの支持を受けたデザインを選出。意見を基に日野山の絵を加えたほか、字体を変更するなど修正を加え完成させた。色は、平安時代の絵巻を再現した市役所公園にちなむ金色の装飾にちなんでいる。商用利用の申請受け付けを同日から開始した。目的に応じた利用がしやすいよう、黒と赤の文字や、枠の形を変えたバリエーションも用意している。（永壽菜々帆）

2人は「Eノ・クエスト」の一環として取り組んだ。すごろくは、福祉意識を育むきっかけとなる。2人は「Eノ・クエスト」の一環として取り組んだ。

「地域学」で課題解決 武生東高が新設 市職員と実践へ



新科目「地域学」のキックオフ会議で市の課題を学ぶ武生東高生=20日、越前市の同校

武生東高は本年度、地域の課題を掘り起こして探究活動に取り組み科目「地域学」を新設した。越前市職員をアドバイザーに迎え、市総合計画に基づいたテーマで課題解決に向けた実践に挑む。

同校が取り組んできた探究活動「ヒノ・クエスト」を発展させて新設。普通科系の専門学科として昨年度スタートした学際フロンテ

勝山北部が
予選会制す
学童野球高田宮賜杯

イア学科のフューチャークエストコースの2年生54人が履修する。福井大や同市の協力を受け、週2時間の授業で学ぶ。

市総合計画に掲げられた課題に沿って▽学生のUターン促進▽高校生による広

報イノベーション▽ブランド力の向上(伝統工芸関係)▽住み続けられるまちづくり(空き地・空き家の利活用と居住誘導)▽ふるさと教育の推進の5テーマを決めた。

20日に同校でキックオフ会議を開き、オンラインで市職員と意見交換。空き家利活用の担当職員は「重要な課題だが何が必要か答えは難しい。どうしたら住み続けられる地域にできるか一緒に考えてほしい」と投げかけた。生徒からは「空き家で店を開業できたらいい」「安心して子育てができる地域づくりを考えたい」との意見が出ていた。

1年間かけて各テーマのフィールドワークなどを通じたプランの立案や実践に取り組み。(細川善弘)

- 江D③雄島▽同B ①加戸②磯部
- ③春江B▽同C ④三國西⑤三國北⑥坂井⑦丸岡
- ▽決勝トーナメント1回戦 春江D9①④三國北、三國南8①②磯部▽準決勝 春江D3①②加戸③丸岡